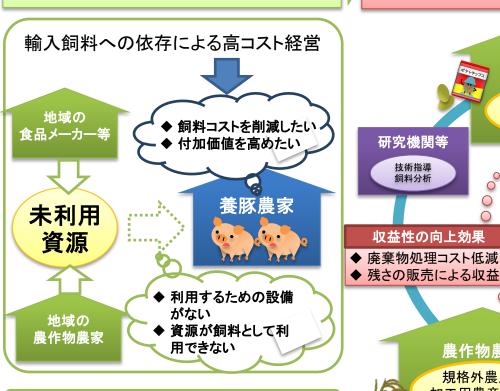
耕種農家・食品業者等と連携した地域飼料資源の活用による豚肉生産

(茨城県)

- 輸入飼料に依存してきた養豚農家が、食品残さ、飼料用米、その他の地域資源を飼料として利用拡大することで、コストを削減。
- 付加価値を高めて販売することにより、収益性を向上。

現状と課題

飼料コスト(生産費の約5割)の低減が課題



課題1 コスト削減のため、地域内の未利用資源(食 品残さ、規格外品)を利用したいが、設備がないため、 飼料の保管·調製ができない。

課題2 豚の品質を高める餌の給与法が分からない。

取組内容

地域の未利用資源を飼料として利用拡大し、地域ぐるみで収益性を向上

食品小売店 食品加工業者 売れ残り品 食品加工残さ

研究機関等

技術指導 飼料分析

収益性の向上効果

飼料原料供給

肉質・嗜好性の 良い残さの 給与技術の確立

施設整備事業で 豚舎・飼料保管庫等を整備

養豚農家

飼料保管 調製施設

② 付加価値を 高める販売先の開拓

利用拡大

◆ 飼料購入費20%減

収益性の向上効果

- ◆ 規模拡大による出荷 頭数増(8020頭)
- ◆ 特別の給餌法による 販売額上昇

食品 販売会社

農作物農家

規格外農産物 加工用農産物残さ 飼料用米

効果1

飼料の保管・調製施設の整備により、地域の未利用資源の飼料利用を拡大し、飼料コストを低減。

効果2 未利用資源を利用することにより、養豚農家、農作物農家、食品業者等が域全体で収益性を向上。